

学校 教育 目標	「ふれあい 学び合い みとめ合う みどりっ子」				
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎基本を大切に、共に学び高め合おうとする子どもを育てます。(知) ○ 自分のよさを発揮し、他の人との違いを認め合うことができる子どもを育てます。(徳) ○ 心と体を鍛え、自分が他の人の生命を大切にすることを育てます。(体) ○ わたしたちのまちを大切に、共に生きる子どもを育てます。(公) ○ 社会の変化に対応しながら、よりよい環境を考えて行動できる子どもを育てます。(開) 				
学校 概要	創立 40 周年	学校長 能城 順一	副校長 本間 弥生	2 学期制	一般学級: 25 個別支援学級: 6
児童生徒数: 899 人	主な関係校: 鴨居中学校・竹山小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
< 問題発見・解決の能力 > 鴨居中学校ブロック < 自分づくりに関する力 > 緑小学校	鴨居中学校 緑小学校 竹山小学校	自ら進んで学ぶ児童・生徒 ・「問題発見・解決の方の指導法の工夫」を鴨居中ブロック合同授業研のテーマとし、各教科・領域においてテーマを意識した研究討議を行う。(6月、9月) ・児童生徒理解をさらに深めるために、情報交換会を行う。(8月) ・小中合同の学校保健委員会を開催し、小中が連携して同じ取組を行う。(6月、1月)

中期 取組 目標	○「ありがとう」をキーワードとした周囲への感謝の心を育む教育を基盤として、全ての教育活動を進めていきます。○だれもが、自分が認められているという安心感のある学校・学年・学級づくりを実現します。○学ぶことの楽しさを実感し、自ら問題を発見し、主体的に問題解決に取り組むことができる授業づくりを推進します。○「ひと・まち・もの」とのふれあい、関わりを大切に、お互いに支え合い、お互いのよさに気づく心の成長を図ります。○家庭・地域・関係機関との交流・連携を深め、共に子どもを育てていくことのできる開かれた学校づくりを進めていきます。○教職員全員が学校運営を意識し、学年力向上と児童支援専任を中心とした組織的な児童指導体制の確立を進めていきます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 問題発見解決能力 担当 教務・研修部	①どの教科でも、児童が「みつけて・かんがえて・なるほど」を意識し、興味をもって主体的に取り組んだり、疑問をもって活動したりできるような導入の工夫をします。②学習や活動の際にはふり返しを行い、達成度を確認し、課題を見つけ、次の目標をもつことができるようにします。
生きてはたらく知 読書活動推進 担当 図書部	①自ら見つけた課題を解決するために、調べ学習を通して、学校司書との連携により図書資料の活用等を幅広く行えるようにする。 ②継続的な読書活動・読み聞かせにより、自分が興味関心のある図書の選択をし、読書活動を楽しむことができる。
豊かな心 担当 道徳部	①学校便り、児童会活動などの取組を通して、児童・保護者・地域に「感謝の心の育成」の更なる浸透を進める。 ②道徳教育を通して、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学習に取り組む。
健やかな体 担当 体育部	①ぐるなわタイム、校内球技大会、ロング昼休みなど、楽しく体を動かす活動に取り組む。 ②規則正しい生活をする姿勢を培うために、家庭と連携した食育、保健教育を実施する。
児童指導 担当 児童指導部	①児童支援専任を中心として、ブロック担任・学年チームと、組織で対応する児童指導の体制を確立させていく。②年間生活目標に「すすんであいさつしよう」を掲げ、教職員が率先してあいさつする。また、児童代表委員会をさらに充実させ、あいさつ運動を推進する。
特別支援教育 担当 特別支援委員会	①一般学級と個別支援学級・特別支援教室の連携強化に向けて、情報収集と発信を相互に、積極的に行う。 ②特別支援コーディネーターを中心に児童一人ひとりの特性や障害の状態等に応じた指導内容や指導方法を組織的に検討し、計画的に指導するために、特別支援教育委員会を開き、全職員で特別支援教育に対する理解を深める。
いじめへの対応 担当 いじめ防止委員会	①年2回のいじめアンケートに加え、子ども一人ひとりに教育相談を実施し、いじめの未然防止・早期発見・解決につなげていく。②教科分担・交換・合同授業等を通して学年力を向上させ、担任・ブロック担任等を含めた複数の目でいじめを見逃さない体制づくりを確立させていく。
人材育成・ 組織運営 担当 教務部・メンター	①「学年力向上」を目指し、教科分担・交換授業・合同授業等を実施しながら、児童が学年の他のクラスの担任とも良好な関係が築けるように、担任全員で学年経営を推進していく。②専科・級外の教員も「ブロック担任」として担当学年に所属し、全教員が責任をもって学年経営に参画する。
働き方改革 担当 教務部	①「教職員の業務内容」について更に見直し、午後の業務時間の確保を目指す。②残業時間を減らしたり、定時退勤したりできるようにする。